【12】　研究と臨床・役割と課題・解答例

＊この問題は要求が二つあり、①「これから医師を目指すあなたは、医学の進歩にどのように貢献したいという夢を抱いていますか」、もう一つは②「またその際、その夢の実現に伴う複雑な問題にはどのように対処したらいいと考えますか」です。研究医志望の人には①に対して具体的に自分のやりたい研究を記述すればよいですが、臨床志望の人は臨床と研究の関係がイメージできていないと書けない問題です。医学は基礎医学であっても目的は疾病についての解明です。疾病とは体の不調を感じた人が、なぜそう感じているのかを解明することによって明らかになります。体の不調を訴える人に出会う場は臨床です。その原因が分からなければ研究課題になります。つまり研究課題は臨床から出てくるのであり、治療法が解明されれば臨床で試みられるのです。この関係性をはっきりと認識しておくことが大切です。

そして、②の課題は特に研究志望者が意識すべきです。研究の成果が高額な医療費につながるとすれば、そこを少しでも軽減するような努力も大切です。そして研究によって次々と新しい倫理問題が出てくるのは、すでに前期の授業で見てきたところです。臨床に進むにしても、多くの場合一度は研究に携わるはずなのでしっかり考えておきましょう。

解答例

私は地域医療を目指しているので、直接、医学の進歩に貢献することができるかどうかは分からない。しかし、日常の医療の中でも治療の難しい病気や、原因の分からない症状の患者に出会うことは少なくないと思われる。そうした時に、その病気や症状の解明に取り組むことは医師のもう一つの使命となるだろう。人々が多くかかる病気でまだ治療法の確立や解明が十分でないものに、がんや認知症などがある。私が実際に現場に出るころにこうした病気への取り組みがどうなっているかは分からないが、その時点で最も必要だと思われる課題に取り組み、その研究をライフワークとしようと思っている。

地域医療に関わりながらの研究は、実際には容易なことではないだろうが、日々の仕事を超えて地域の人々が苦しむ病気の解明に力を注ぐことは生きがいにつながるだろう。もちろんこうした研究は大学の研究室でその分野に専念するチームと連携をとり、地域の現場からの実践の経験とデータを提供し、解析や基礎的な作業の結果を知らせてもらうなどの分担が必要だろう。私はこのような形で医学の進歩に貢献できることを願っている。

だが、こうして開発される新技術は高額であろうし保険でこれを補うことはできない。しかし、多くの人々に必要な医療であるなら、臨床研究の段階から混合診療を特別に認める措置を設け、実用化されたらなるべく早く保険に組み込んでいく必要がある。また、

その技術が本当に必要なものかどうかを厳密に審査し、負担とのバランスが取れるような選択も必要だろう。

倫理面では、まず研究や臨床応用で効果と安全性を確かめる。同時に、人間の誕生や死の常識が大きく変わったり、患者の個性や人格への影響、そして未来世代や環境への影響などが懸念されるなら、研究者・医療者だけでなく、多方面からの検討を行う場を設け、社会的合意を得て研究・実用化を進めていく必要があるだろう。

解説

皆さんの医学部志望の思いを問うという問題です。しかし、課題としては「医学の進歩」への貢献が課題とされ、研究と臨床の関係についての認識を問うというステップが加わっています。さらに、医療費や医療制度、生命倫理の課題が盛り込まれ、総体として皆さんの医学・医療に対する認識の度合いを見ようとする出題意図が明確です。

たぶんほとんどの人は臨床志望だと思います。また臨床でも地域医療に関わりたいという人が多いだろうし、大学としても県下の地域医療を支える人材を求めていることは確かです。浜松医科大学は新設医学部として静岡県下の地域医療の担い手を育成するという基本的な使命をもって創られました。しかし、一方で国立大学医学部は研究を進め、その担い手を育成するという使命も持っています。たとえ臨床に進むにしても、研究に携わった経験は大切ですし、研究テーマを持って医学に取り組み続ける姿勢が求められます。

そのため、ほとんどの医師は国家試験を通った後に卒後の臨床研修に入り、その後、大学院の研究室に入っていったん研究に携わり、もう一度現場に戻るというコースを歩みます。最近は研究を経ない医師も増えてはいるようですが、大学としては研究の経験を経て、医局に加わって現場に赴いて欲しいと思っているようです。

つまり、現在の医学部教育では医師は同時に医学者であるという自覚を持つことを求めているのです。その点で、受験論文でも医学と医療、研究と臨床の関係について考えさせる問題は頻出課題となっています。臨床志望、研究志望の如何に関わらず、「医学の進歩」への貢献を考えさせる意図はこうしたところにあるのです。

また、「医学の発展に伴い、高額医療費等の経済面の問題や、研究及び臨床応用時の倫理面の問題等、様々な社会問題」が生じていることについての考察は、医療の現状や倫理課題などにどの程度認識があるかを問う問題です。

医療の高度化は医療費を押し上げます。新しくて高度の医療はそれだけ高額なものになるからです。そして、現在、日本の国民皆保険制度は危機的な状況にあります。医療の高度化と人口高齢化によって医療支出が増大し、保険者（保険組合）の財源が枯渇しているからです。これを補うには患者の窓口支払いを上げるか、保険料か税負担を上げるかしかありません。どれにしても国民の負担は増加するのですが、これをどう考えるかということです。何でも新しくて役に立つ技術なら保険に組み入れたり、混合診療の特例対象にしていくのではなく、本当に社会的な需要が高いものであるかどうかの検証は必要ということです。

また、倫理問題は、効果と安全の確認と患者の同意もしくは自己決定があることが第一の要件です。その上で、患者以外の人への危害や負担がないかどうか、社会の公共的秩序への影響、環境や未来世代への影響が問題になります。特に遺伝子や生殖に関わる技術は人類の形質を歪めていく危険が多分にあるために慎重でなければなりません。

課題文で取り上げられているｉPS 細胞も、例えばそこから生殖系列の細胞を作った

り、そこから受精卵を作り、それを治療などに用いれば、もともと遺伝子が導入されている細胞ですから次世代に影響は及ぶはずです。こうした危険性は避けなければなりません。社会が容認してもよいリスクはどの程度のものなのかを正確な情報に基づいて、社会の人々が決めていかなければなりません。

　こうしたことについての認識がどの程度あるかによって、医学・医療への関心度、本気度が試されているということです。